実施主体、事業名などの概要

・事業名：岡山県広域 里山・里海学習体験型コミュニティプロジェクト
「OKAYAMA SATOYAMA-SATOUMI UNIVERSITY プロジェクト」
・実施主体：一般社団法人 北房観光協会　・対象地域：岡山県真庭市・備前市・笠岡市
・対象とする良好な環境：「令和の里海づくり」モデル事業、残したい“日本の音百景百選”

地域の現状・課題

水で繋がる真庭市北房、備前市日生、笠岡諸島はいずれも過疎化が進み入込数が少ない地域。良好な水環境の保全のため、瀬戸内海の水質の維持・栄養塩の管理・アマモ場の再生、健全な里山作りが必要であるが、事業費や人材の確保が困難な状況であるため、３エリアの効果的な連携による、保全活動の体験プログラム化とその発信、人材育成が必要。

目指すべき姿（中長期ビジョン）

３エリア広域連携によるコミュニティ運営団体が設立され、国内外の自然関心層や教育団体・企業が訪問し学習体験ができる環境を整備し、３エリア間連携による新たな保全プロジェクトやツアー、体験学習による活発な活動が持続的に実施されている状態を目指す。

実施項目（事業内での取組）

- 広域3エリアの横断組織の設立準備
- 営業戦略の策定及び検証
  一般販売・受入モニター実施
  キックオフイベント開催
- 受入人材の育成・拡充
- 保全との連携体制（運用）の構築

R9：横断組織設立 サイト運営ツアー・コンテンツ販売開始
（事業期間終了後）

R8：3エリア横断組織 設立準備ツアー・コンテンツ販売準備

R7：体制構築　体験プログラム造成　初期PR

実施項目（事業内での取組）

- 広域3エリア連携による体制構築
- 広域コミュニティのストーリー及びコンセプトの形成
- 体験プログラム造成検証（国内外有識者モニター実証）
- 初期PR体制構築（WEBサイト立上げ・関連サイトでの発信）

実施項目（自走化）

- 広域3エリアの横断組織設立・サイト運営
- 継続したコミュニティフォロワーの獲得活動
- 国内外の教育団体・企業の受け入れ実施
- 体験ツアー・コンテンツ販売

対象となる良好な環境の概要

- 真庭市北房では 長年のホタル保護活動、鍾乳洞から瀬戸内海へつながる水環境を保護するための川ゴミ拾い活動が行われ古代からの人と自然の共生を示す古墳、史跡が豊富。バイオマスSDGｓ脱炭素先進地。海を意識した森づくり事業がスタートしている。

- 備前市日生は古くからの漁師町。全国でも先進的にアマモ場の再生を行ってきた。牡蠣の生産が盛ん。「五味の市」という海鮮市場が有名で備前焼、閑谷学校など文化の盛んなエリア。

- 笠岡市諸島は古くからカブトガニの保護地域として有名。
  海洋生物の多様化、再生ため海洋牧場事業が行われている。
  白石島では無形文化財の白石踊りなどがあり北木島では牡蠣の特殊冷凍技術が開発され年中、生牡蠣を提供できる技術があり海外からの注文も始まっている。

良好な環境に係るストーリー

真庭市北房の鍾乳洞や森から流れ出る栄養塩が、川を通じて瀬戸内海の生態系に大事な役割を果たしてきたことや、その環境を里山里海の先人が献身的に守ってきたことを、多くの人に知ってもらうために、里山里海の連環をテーマにしたツアー/コンテンツを造成して募集販売します。楽しく学び、体感するプログラムを実施することで、保全に関わる人の増員、人材育成につなげます。３エリア横断のコミュニティ組織、webサイト（インバウンド/会員募集/会員活動ページ等を含む）を構築して広く拡散します。

〈真庭／里山エリア〉長年続けられているホタルの保護活動への参加～ホタル観賞体験、源流である鍾乳洞や滝周辺での自然体験と座学、学術をベースにした森の中での座学、間伐体験、日生の牡蠣殻を粉砕して作った肥料を、北房の田んぼに撒いて育てた真庭里海米を使った「森で食べる羽釜ごはん体験＋里山里海の栄養連環座学」、牡蠣の養殖に使う牡蠣いかだの材料を、森から伐採して漁協に納品する工程の中で、檜の皮むき体験などをプログラム化します。

〈備前/里海エリア〉海への関心や好奇心喚起につなげ、次世代を担う子供たちが海をより「自分ごと」として捉え、海を未来へ引き継ぐ行動の輪を広げます。アマモの再生に関わる体験座学と実際に漁船に乗ってアマモに生息する魚介類を観察する体験、アマモの苗を作る苗ポット作り、アマモの再生活動に参加してもらい自分事としていただきます。更に海ごみを回収する体験や海ごみを使ったアートワークショップなどを体験いただきます。

〈笠岡／里海エリア〉海洋牧場をはじめとする実験の様子を実際に漁船に乗って観察する体験、地引網体験、干潮時での島渡り、アマモ場見学などの体験と座学を実施します。

実施体制（図示）

真庭市
環境・観光部署との協働事業に向けた協議及び支援

備前市
環境・観光部署との協働事業に向けた協議及び支援

笠岡市
環境・観光部署との協働事業に向けた協議及び支援

真庭観光局
造成されたツアー・コンテンツの販売連携または広報協力

備前観光協会
日生町漁業協同組合
造成されたツアー・コンテンツの販売連携または広報協力

笠岡市観光協会
造成されたツアー・コンテンツの販売連携または広報協力

岡山商科大学
翻訳
地域連携
講師

山陽学園大学
地域連携・講師

地域連携

実施主体（OKAYAMA SATOYAMA-SATOUMI UNIVERSITY）　**コミュニティ共同体**

★ **一般社団法人 北房観光協会**
里山里海交流館 しんびお
（里山エリア）
＜役割＞
請負事業実施主体（幹事）
広域団体事務局／取りまとめ

連携

一般社団法人 みんなでひぜん
ひなせうみラボ
（里海エリア）
＜役割＞
企画連携・プログラム開発

連携

かさおか島ラボ
（里海エリア）
＜役割＞
企画連携・プログラム開発

環境指導

NPO里海づくり研究会議
（里山里海の水環境指導）

岐阜県立
森林文化アカデミー
（森林環境教育指導）

コバウッズ
（森林インストラクター）
（森林コンテンツ指導）

プログラムの外部連携

【観光担当】
クラブツーリズム
株式会社
＜役割＞
企画全体監修
ツアー開発・運営
全体統括サポート

【サステナビリティ・
PRサポート担当】
ハーチ株式会社
＜役割＞
企画監修サポート
PR戦略

【インバウンド関連
サポート担当】
株式会社
アーバン
コネクションズ
＜役割＞
外国人向けプログラ
ム開発サポート

モッツプランニング
委託広報

中野清範
食のコーディネート

【Ｒ７年度取組】

広域3エリア連携による体制構築

- 3エリア合同プロジェクトチーム（分科会含む）の構築
- コミュニティ連携機関との連携推進
- 地域住民と関係事業者向けイベント開催

特に工夫した点・取組成果

- ３エリア合同で情報交換できる体制を整えた。また分科会も設置し、役割・責任区分の明確化を図った。P6参照
- 外部企業団体との連携窓口ができた。
- 地域住民と事業の意義を共有できた。地元大学教授の講演を行い広域での産官学の連携について意見交換できた。P7参照

広域コミュニティのストーリー及びコンセプトの形成

- ストーリー・コンセプトの考査および見せ方の考査（WEBサイト等）
- 外国人来訪者に対する受け入れやコンセプトのインプットについての考査

特に工夫した点・取組成果

- 海と山を守る「人」にフォーカスした体験を通じて、ストーリー、価値が理解できる言語化・可視化を検討 P10参照
- 3カテゴリーのコミュニティ機能を設計し、第一弾として牡蠣で繋ぐ森・海連環ストーリーを深掘り
- カスタマージャーニーマップを作成した。

体験プログラム造成検証（国内外有識者モニター実証）

- モデルツアーにおけるモニターの実証
- モニターツアーの結果を踏まえたコンテンツ等の再検討
- モデルツアープログラムの造成
- 多言語対応や多文化適応を見据えた体制整備、料金体系の構築

特に工夫した点・取組成果

- 日本人向けと外国人向けを分けてモニターツアーをした。
- 専門家、有識者意見を反映させて再検討、モデルコース造成
- 英語Webサイト翻訳が完了してWEB上に反映した。インプット動画の翻訳が完成して動画に反映した。ガイドトークの一部の翻訳が完成して８年度に活用

初期PR体制構築（WEBサイト立上げ・関連サイトでの発信）

- WEBサイトの立ち上げ
- コミュニティPR戦略の策定及びPR実証
- 販売戦略に基づくWEBページSNS等のコミュニティ運用テスト

特に工夫した点・取組成果

- WEBサイトを公開して、コミュニティについて発信した。
- OSSUとの関わり方を様々な方法で取ってもらえるようコミュニティを設計し、PR戦略を策定した。
- PR実証については、PR媒体作成後の検証結果を、P19に記載
- コミュニティ運用テストとしてSNSを開設し運用した
- サステナブルメディアから、外部PRの第一歩として、記事発信できた。

R7年度のゴール

- 栄養塩の連環、広域連携という分かりにくい言葉や意味、意義を分かりやすく表現して、コンセプト設計、英語翻訳等ができた。
- 広域３エリアにおける運営体制、ストーリーの完成、来期の販売運用検証に向けての各種準備完了（体験コンテンツ精査・WEBサイト造成による受け入れ導線の構築・情報の初期発信）

課題

- 広域連携事業における移動距離の問題についてツアー行程、ツアー期間などの工夫が求められる。
- 広域連携事業における関係者の意思の疎通や連帯感の強化、人材を育成していくことが求められる。
- 里山と里海の連環についての説明やストーリーをわかりやすく表現する必要がある。

取組内容詳細：広域連携による体制

岡山サステナブル里山里海UNIVERSITY （OSSU）
真庭市 備前市 笠岡市 広域3エリアの連携体制構築及び人材の育成

本プロジェクトは、広域３エリアの連携体制の構築が重要である。しかし、各拠点ともに既存業務も忙しい中、体制構築は容易ではなかった。里山⇄里海で打ち合わせ・訪問を繰り返す中で、自然保全活動を自分のビジネスとして確立するために努力している、各拠点の若手30代の想いが繋がった。そのメンバーを連携窓口担当とし、長年保全活動に従事してきたベテラン勢がサポートする形で連携体制の土台構築ができた。

OSSU Okayama Sustainable SATOYAMA / SATOUMI University

【北房】 **窓口担当：コバウッズ 小林**
小さく持続可能な森林経営を通して、
里山保全・再生に取り組む林業家

【笠岡】
窓口担当：みずべ 松田
海洋実験・調査を通じて、
持続可能な里海を守るダイバー

OSSU
レンジャー
（※）

【日生】
窓口担当：里海づくり研究会議 広瀬
海洋調査研究と海の現場を結ぶことで、
生き物がハッピーな里海を守る研究員

里海米を作る
農家

地域の仕事と繋がる
滞在拠点オーナー

海の学術研究所
運営者

海を守る
漁師

・・・・

環境保全に
関わってくださる方
増員計画中

※OSSUレンジャー：OSSUのプログラムに登場する林業家や漁師・ダイバー、地域の担い手たちのことであり、自然資源を一方的に使うだけでなく、使いながら、育て、再生（リジェネレーション）していく確かな知識と技術を持ったプロフェッショナル

分科会の設置　分科会構成メンバー

各分野ごとの役割分担、責任区分を明確化し、分科会ごとに議論する体制を整えた。

コンテンツ分科会	WEBページ分科会	モニターツアー分科会	インバウンド分科会
小林建太　広瀬美砂 松田宏矢　柏野悠吾 柏野夏美　中野清範 クラブツーリズム	モッツプランニング 小林建太　広瀬美砂 松田宏矢　ハーチ（株） クラブツーリズム	小林建太　広瀬美砂 松田宏矢　ハーチ（株） クラブツーリズム　中野清範 アーバンコネクションズ	小林建太　広瀬美砂 松田宏矢　ハーチ（株） クラブツーリズム アーバンコネクションズ

コミュニティ連携機関への連携推進結果

さまざまな団体と、事業の共創、コンテンツ提供連携やイベント開催に向けて、具体的な連携の輪が広がった。

地域住民、関係事業者向けイベント開催記録

『OSSU 地域交流会』 開催日時 令和８年１月１０日　15時から17時

開催場所　真庭市　里山里海交流館しんぴお
　　多目的ホールほたるび（４0人キャパ）

参加者　主催側　北房観光協会会長　高野義信
　　里海づくり研究会議　事務局長　田中丈裕
　　中国四国地方環境事務所　赤田貞二
　　OSSU北房から８名
　　OSSU日生から３名
　　OSSU笠岡から３名

講演者　岡山商科大学　三好 宏 教授
　　山陽学園大学 中村聡志 教授

来賓　岡山県美作県民局長
　　真庭市北房振興局長、主査２名
　　真庭市環境課長、課長補佐２名
　　真庭商工会北房地区代表　中国銀行北房支店長
　　JA晴れの国岡山 備中エリア統括本部長

一般地元住民　北房エリアから延べ２０人

次第
開会あいさつ　北房観光協会 会長　高野義信
経緯、意義説明　里海づくり研究会議　田中丈裕
事業報告～モニターツアー記録動画上映　坂本事務局長
講演　テーマ　両大学とのこれまでの地域連携と
　　これからのOSSU産官学連携およびアドバイス
意見交換　主なコメント
・日生エリア参加者
　里山里海の自然から享受された産物を知らない人が多い今後、活かすべき
・中国四国地方環境事務所　赤田貞二
　里山里海広域連携は類のない取組 成果を期待する
・レンジャー３名の**抱負**など
　地域交流会の記録は、Youtubeにて限定公開
　https://youtu.be/dRKy9tlQvQY

取組内容詳細:広域コミュニティコンセプトの形成

OSSUとは、自然再生を「知識」ではなく「体験」として学び、仲間と共に続けていくコミュニティ

◆目的（WHY）：コミュニティを運営する理由

林業や漁業の現場で培われてきた、自然と共に生きる知恵や技術を次の世代につなぎ、
自然を守り、再生する仲間を増やすため

◆対象（WHO）：どのようなファンやユーザーを集めるのか（ペルソナ）

世代や立場を越えて、「自然とどう関わって生きるか」を本気で考えたい人たち。

①探究学習や修学旅行の学生・教育機関（小～大学生）
②自然再生活動に興味のある企業・団体
③自然保全・活用に興味のある個人ユーザー（学生／社会人）
④海外のネイチャー系探究団体・教育機関

◆提供価値（WHAT）：参加者がコミュニティで何を得られるのか

地域で自然と向き合いながら生業をつくるプロフェッショナルであるOSSUレンジャーと共に、
楽しく体と手を動かし、継続的に自然と関わる体験を通して、自然再生を“実感として”学べる。
それは、気候変動が進む先の見えない時代に、**「自然とどう関わり、どう生きていくか？」**
を自分自身の言葉で考えるための、確かなきっかけになる。

◆◆提供方法（HOW）：どのような活動を通じて価値を提供するのか

①OSSUストーリークエスト

里山里海の変化や再生をレンジャーが伝えるストーリーで一緒に巡り、学ぶモデルツアー
（1泊2日や、2泊3日など）

（例）・山と海をつなぐ“かきもり（牡蠣守り/牡蠣の森）”ストーリークエスト
・“海と山のゆりかご”ストーリークエスト（海のアマモ場再生&山のみずべの森再生）

②OSSUプロジェクト

参加型（共創型）の継続性のある企画や、クライアント要望に応える個別対応企画

（例）・牡蠣筏のための森づくり（植林・育林）体験　with 企業団体（CSR活動）
・牡蠣殻を使った里海米の米作り通年体験
・アマモ場の再生活動

③OSSUスタディ

OSSU→ゲスト
（一方通行）

・OSSUレンジャーストーリー
→OSSUレンジャーからの持ち回りでの
現場レポートや情報発信・知識のインプットなど
（note形式を想定）

・OSSUレンジャートーク
→レンジャーをファシリとして
様々な海の人・山の人をゲストに迎えて
現場の今を伝える（podcast形式想定）

OSSU⇄ゲスト
（双方向）

・OSSUレンジャー1on1
→実際に海や山の現場で活躍するレンジャーと
オンラインで話せる機能
（予約制／有料／RQベース）

・OSSU体験会（体験入学イベント）
→定期的に3エリアにてレンジャーと
スポット体験を通じた交流イベントを実施
（不定期／リアル開催）

取組内容詳細:広域コミュニティストーリーの形成

森で生まれた水と栄養は、川を下り、海へ届き、命を育て続けてきました。その流れの上に、林業家・漁師・ダイバーなど地域の人々の営みが重なり、里山～里海をつなぐストーリーを描きます。

※インバウンド誘客ストーリーとして、牡蠣養殖の世界的メッカの日生の強みを活かして、かきもりストーリーを次年度磨き上げます。

【北房】

ホタル
森づくり
米作り
水の源流

海と山のゆりかごストーリー（アマモ）

かきもりストーリー

【笠岡】 アマモ
海洋牧場

牡蠣
豊かな海 **【日生】**

取組内容詳細：体験プログラム造成検証（国内外有識者モニター実証）

里山里海の連環を体感できるモデルコースを策定してモニタリングを実施。それぞれ対象に関連する有識メンバーを招聘してコンテンツの磨き上げに関して多様な視点でのヒヤリングを行った。

11/13-14 北房～日生ルート：環境関心層や自然愛好・地域接点を望む日本人向け（B2C/B2B含め）実施完了

モニター参加者（4名）：
株式会社アスエク（リジェネラティブツーリズムメディア運営及び地域活性コンサルティング）
株式会社大広（ネイチャーポジティブ文脈の事業開発チーム）
パタゴニア（ネイチャーツアーガイド／通訳案内士）、メディア「idea for good」記者（サステナビリティ専門）

11/26-27 北房～笠岡ルート：自然愛好アドベンチャーツーリズム 日本ローカルやサステナ嗜好のインバウンド向け　実施完了

モニター参加者（4名）：
・（ドイツ出身・女性）・（アメリカ出身・男性）・（中国出身・男性）
＋メディア「ZEN BIRD」記者（外国人向け日本式サステナビリティテーマのメディア）

事業における食の企画、モニターツアー２回の食事企画

モニターツアーを通じて、体験のリアルさと地域の人の物語が最大の価値であることが明確になった。今後は、事前学習の導入や、移動中のインプットなどの工夫により理解を深めつつ、現地での体験時間を拡充させ、再訪したくなるツアーへと発展させる。

＜提供コンテンツ事例＞

・牡蠣いかだ用ヒノキの間伐体験
意図：森づくりの現場から、海の豊かさを支えるしくみを体験する
・文化庁指定・有形文化財の古民家レストランで里山里海オリジナルメニューのお食事
意図：食を通して、森と海の循環を“味わい”として実感してもらう。
・底曳き網漁業体験
意図：海の恵みを支える「現場の知恵」と「生きた営み」を体感する。
・ひなせうみラボ・シーカヤック体験
意図：海を“俯瞰して見る”ことで、森と海のつながりを再確認する。
・頭島漁師料理体験
意図：海から食卓までの“いのちのストーリー”を自分の手でたどる。

《北房～日生ルート 体験の様子》

モニターツアー記録写真　（真庭市北房　里山、森体験）

モニターツアー記録写真　（真庭市北房　里山、森体験）

モニターツアー記録写真　（真庭市北房～備前市 日生 漁師体験ほか）

モニターツアー記録写真　（真庭市北房～備前市 日生 漁師体験ほか）

体験コンテンツ考査（磨き上げ、新規企画造成、提供コンテンツ検証）

体験コンテンツの磨き上げ
★参加者が自然の中で足元（靴）が汚れるので長靴を用意
★フェリー移動船内で体験内容事前説明　★山守人、海守人のなりわいに触れる。
★ツアーおよびコンテンツガイドが、移動中など常にコミュニケーションを取る。
★里山と里海の連環の重要性をトークの中になるべく挿入する。
★一般では体験できない要素を取り入れる。★地域の思いを伝える。
★先人、または今を生きる山守人、海守人が守ってきた瀬戸内の環境保全の様子を伝える。
★宿泊場所などを快適にすごせるよう努力する（WiFi、虫対策など）★地域の人と触れ合う時間を作る。

新規企画造成
★チェーンソー体験　★森の中で囲炉裏体験
★地元のお母さんと一緒に野菜収穫、田舎ごはん作り、囲炉裏ごはん
★アマモポット作り　★定置網漁体験　★底引き網漁体験　★牡蠣化工場見学
★牡蠣養殖場見学　★酒蔵見学

提供コンテンツの検証
★モニターツアー実施後の参加者のフィードバック参照　フィードバック内容を踏まえた商品化における反映

既存のコンテンツも含めて考査を行い、別途資料にとりまとめた。
また、委託旅行代理店クラブツーリズムにおいての評価を実施して別途資料にまとめた。

広域周遊型モデルツアープログラム造成（タリフ）

専門家の意見を反映させたツアープログラムとして、北房・日生を周遊する1泊２日のプログラム
「山と海を牡蠣でつなぐ「（牡蠣守り／牡蠣の森）かきもり」体感クエスト」を作成し、タリフにまとめた。

取組内容詳細:PR体制構築（WEBサイト・関連サイト令和８年２月２０日オープン）

１、WEBサイト（２月２４日オープン）　https://www.ossu-pj.com/　HPスクリーンショット次頁掲載
令和７年度中に構築した。OSSU説明　コンセプト、コンテンツ、モデルツアー案内などを掲載しました。
英語ページ２月２７日オープン　https://www.ossu-pj.com/english

２、コミュニティサイト開設
下記コンテンツを、令和８年２月２４日に
インスタグラム【ユーザーネーム】ossu.pj、
Facebook　https://www.facebook.com/ossu.pj?locale=ja_JP
と紐づけて発信して交流の場としています。

OSSU→ゲスト
（一方通行）

・OSSUレンジャーストーリー
→OSSUレンジャーからの持ち回りでの
現場レポートや情報発信・知識のインプットなど
（note形式を想定）

・OSSUレンジャートーク
→レンジャーをファシリとして
様々な海の人・山の人をゲストに迎えて
現場の今を伝える（podcast形式想定）

OSSU⇄ゲスト
（双方向）

・OSSUレンジャー1on1
→実際に海や山の現場で活躍するレンジャーと
オンラインで話せる機能
（予約制／有料／RQベース）

・OSSU体験会（体験入学イベント）
→定期的に3エリアにてレンジャーと
スポット体験を通じた交流イベントを実施
（不定期／リアル開催）

※Youtube　チャンネルを開設した。現状は内部限定公開動画のみアップ
https://www.youtube.com/channel/UCOuKoQvH9rG3xxIuWHpj10g
モニターツアー記録動画を限定公開で掲載中　公開動画　２月２７日現在２本

３、上記発信と同様に令和８年２月２４日に
委託専門業者ハーチ（株）からの発信
国内FAMレポート記事:「IDEAS FOR GOOD」　https://ideasforgood.jp/2026/02/24/ossu-tour/
海外FAMレポート記事:「Zenbird」https://zenbird.media/2-day-trip-to-okayama-protecting-mountains-to-preserve-the-sea/
クラブツーリズムからも情報発信開始　クラブログ　https://clublog.club-t.com/_ct/17815084

現在制作中のWEBサイトのページ展開　抜粋

２月２４日公開　https://www.ossu-pj.com/

OSSUとは

OSSU（Okayama – Sustainable – SATOYAMA / SATOUMI – University）は、岡山県発の広域的な「里山・里海」の自然保全学習・体験コミュニティです。

水で繋がる3つのエリア（真庭市・備前市・笠岡市）が連携し、それぞれの地域が培ってきた保全活動の知見や自然環境の魅力を一つの「学校」のようなプラットフォームとして再設計しました。

単なる観光ではなく、学術的根拠に基づいた知識の習得と、地域に深く入り込む実践体験を融合させることで、国内外の「自然を守る仲間」を増やすことを目的としています。

OSSUで大切にしていること

私たちは、以下の3つの柱を活動の指針として大切にしています。

アカデミックな知見と実践の融合
専門家による森林保護や海洋研究の最新データに基づいた「正しい知識」を学び、それをフィールドでの「リジェネラティブ（再生型）な実践体験」へと繋げます。

「水の連環」という一気通貫のストーリー
森・里・海は独立したものではなく、水や栄養塩を通じて繋がっています。
この連環を総合的に理解できるプログラムを提供し、自然環境の全体像を伝えます。

OSSUが伝えたい想い

「郷土の豊かな自然を、未来の世代へ繋ぎたい」

かつての豊かさを失いつつある里山・里海の環境を守るためには、より多くの人々が現状を知り、自分事として保全に関わることが不可欠です。
私たちは、観光や体験を通じて生まれる「地域の一員」としての交流が、そのまま地域の自然保護に直結する好循環を目指しています。

「里山から海を守る」「海に寄り添う源流の暮らし」といった、水で結ばれた命の物語を五感で体験し、共に未来を共創する仲間になってほしい。
それがOSSUの切なる願いです。

連環：水が繋ぐ、いのちのバトン

岡山には、古くから続く「連環」があります。
里山の森を間伐して光を入れることで、豊かな栄養（栄養塩）が川を通じて海へと流れ込み、それが牡蠣を育て、アマモを繁らせます。
そして、役目を終えた牡蠣殻は再び粉砕されて里山の田畑の肥料となり、美味しいお米を育みます。
この壮大な水の物語を、3拠点を巡ることでひとつのストーリーとして体験できるのが本プロジェクトの最大

フィールド

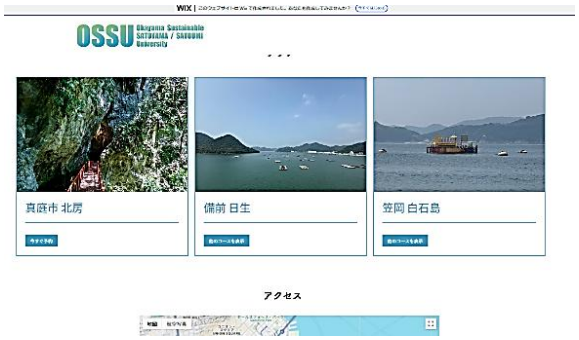
真庭エリア（里山：北房）
～海を守る源流の暮らしと、里山資本主義の最前線～
特長： 瀬戸内海へ注ぐ水の始まりの地。SDGs未来都市や脱炭素先行地域に選定された、循環型社会の先進モデルエリアです。
主な体験： 鍾乳洞や滝などの源流体験、長年続くホタル保護活動への参加、間伐材（牡蠣いかだの材料）の皮むき体験などを通じ、森と海の繋がりを学びます。

備前・日生エリア（里海：日生）
～40年以上にわたるアマモ場再生、情熱の漁師町～
特長： 消失したアマモ場を40年以上かけて回復させた実績を持ち、海洋立国功労者表彰（総理大臣賞）を受賞した、全国に先駆けた環境保全の聖地です。
主な体験：「ひなせうみつボ」を拠点としたアマモの苗作りや再生活動、漁船での生き物観察などを通じ、豊かな海を育む仕組みを体感します。

笠岡エリア（里海：笠岡諸島）
～失われた自然を取り戻した、世界に誇る「海の牧場」～
特長： 干拓により失われた水産資源を、20年以上にわたる「海洋牧場」事業によって復活させた、科学的かつ実践的な海洋教育のフィールドです。
主な体験：「かさおか島うボ」を拠点に、海洋牧場や実験施設の観察、地引網体験、干潮時の島渡りなどを通じて、生物多様性と海業の持続可能性を学びます。

連環：水が繋ぐ、いのちのバトン

岡山には、古くから続く「連環」があります。
里山の森を間伐して光を入れることで、豊かな栄養（栄養塩）が川を通じて海へと流れ込み、それが牡蠣を育て、アマモを繁らせます。
そして、役目を終えた牡蠣殻は再び粉砕されて里山の田畑の肥料となり、美味しいお米を育みます。
この壮大な水の物語を、3拠点を巡ることでひとつのストーリーとして体験できるのが本プロジェクトの最大の魅力です。



・映像とガイドトークの英語翻訳
・映像用英語ナレーションの収録　・英語版WEBサイトの制作

①映像とガイドトークの英語翻訳
　インプット立体映像日本語テキスト、しんぴおゲスト到着時のガイドトーク英語訳
②映像用英語ナレーションの収録
　完成翻訳を精査したのちナレーション収録して動画に挿入して完了しました。
③既存映像の英語ナレーション版制作　ツアー冒頭観賞するインプット動画に英語版を加えました。

④英語版Webサイトの制作　日本語版HPからボタンクリックで別ページに展開します。
　　WEBページ　英語版は　２月２７日　仮オープン

PR戦略、実証レポート

戦略項目　決定事項
　OSSUの活動内容、環境保全への参加募集（企業、団体、個人）商品化されるツアー、
　各種体験コンテンツのPRは２月２４日HP、SNS開設以降にアクセス数を検証して今後のPRに活かす。
　HP、SNS、委託専門業者（ハーチ、クラブツーリズム）関係者からの発信
PR実証
　2月２４日各種ローンチ後にPR発信における検索数、フォロー数などを検証した。
　開設間もないが２７日現在の各アクセス数は次の通り　WEBサイト　セッション数３５５人
　Facebook　フォロワー数９人　アクセス数４６４人　　Instagram　記録なし

OSSU　KPI　設定

　R7年度目標　会員
　企業団体　目標１０件に対して１０件達成
　個人令和９年度までの目標１００人に対する数値まとめはネットフォロワー数、登録者数などを調査

　令和９年度の目標　企業団体　２０件　　個人　１５０人

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的内容・方法

- 瀬戸内海の栄養塩の不足を改善するためには森林放棄の拡大で密集してしまった人工林を間伐して太陽光が地面に当たるようにして多様な草や広葉樹を繁殖させ豊かな栄養が流れていくようにする必要がある。
  間伐材を里海で活用する。
- ホタルを守るための川ごみ回収やカワニナの放流は川の水質の状態、海の状態を知るための指標となる。
- 瀬戸内海の生物を増やすには漁協や関係者だけでなく地元住民や本事業で訪れる人にアマモの再生体験に参加してもらう。瀬戸内海を多様な生物が生息する海に再生するには海洋牧場や漁礁を設置活用して稚魚から成魚の間の保護が必要である。
- 牡蠣殻の処理問題を解決するために殻を粉砕して作った肥料を活用する。

活用の具体的内容・方法

- 間伐作業で牡蠣筏用のヒノキの皮むきなどを体験学習した上で、筏の組み立て場や牡蠣筏が並ぶ海を展望することで、栄養塩の連環を理解してもらう植林作業に参加してもらう。間伐材を牡蠣筏に組み立てる体験に参加してもらう。
- 鍾乳洞や湧き水を訪問して水の始まりを体感する。
- ホタルのエサ、カワニナを用水路で採取して本流に放流する作業や川ごみひろいに参加してホタル観賞に再来してもらう。ホタル保護活動は海の保全につながることを学ぶ。
- 牡蠣殻を粉砕した肥料による生産作業を体験する。
  牡蠣殻肥料散布体験・里海米、野菜を収穫してもらう
- アマモの種採り作業に参加する。
- 漁礁を引き上げ生き物観察する。
- ４０人～８０人規模の教育旅行、企業団体視察用のプログラム、座学を用意する。
- 牡蠣殻肥料を里山の田んぼに撒いて里海米を作る作業参加してもらう。

活用から保全への還元方法

- 保全作業を体験することで保全の大切さを理解してもらえる。環境保護活動への参加推進、普及啓発に役立つ。
- 保全作業の体験コンテンツで収益を得ることで、保全にかかる費用捻出につながる体制を構築する。
- 楽しい体験を入り口に学術的に深堀する人、共に保全に加わりたい人などを増やすことで、人材育成につなげる。
- 良好な環境を体感することで移住定住推進の一助となる。
- 日本の豊かな環境や保全に携わる人の素晴らしさをインバウンドにも発信することで良好な環境への注目度を高め、地域における保全の機運を醸成する。
- 牡蠣殻を里山で活用したり間伐材を牡蠣筏に活用する物流により循環、連環に資する経済活動が活発になる。
- 団体を受け入れることにより収益が上がり保全への還元が多くなる。 例 現しんぴお体験動画座学１時間 鍾乳洞見学１時間　40名×1,000円＝40,000円－人件費10,000円粗利益30,000円を各種保全に還元　大人数による保全面積や保全成果も拡大できる。

【Ｒ８年度取組】

広域3エリアの横断組織の設立準備　発信強化

- 規約作成、組織運営の強化
- コミュニティPRを開始する。
①WEBサイト・SNSからの発信ストーリーを分かりやすくする
②関係団体、個人から発信拡散
③行政、観光団体への協力要請

想定する成果

- 3エリアが一つの集団として活動しコミュニティへの参画を求めていることを広く発信できる。新しい里山里海保全と観光がマッチングした事業として認知度が高まる。

営業戦略の策定及び検証 日本人 外国人向け体験会の実施

- 外国人向け、日本人向け、教育旅行、企業団体ターゲットごとのアプローチルート設定
- 営業パンフレット制作
- 日本人 外国人向け体験会の募集、実施。教育団体、企業団体向けプログラムの企画 実施
- 移動距離の問題解決に向けた検証を行う。
７年度造成販売用ツアーの販売準備

想定する成果

- 営業戦略の実施により自走時の販売活動を直ちに行える。
- 教育団体、企業団体向けの企画を実施することで次世代育成、販路拡大、関係人口、コミュニティ拡大につながる。
- 企業側のコンプライアンスに対応できる。

受入人材の育成・拡充

- 地域のヒーロー的な表現でコンテンツを提供するメンバーをレンジャーとする。ガイドとしての表現方法や受入方法を磨き上げ、満足度の向上を目指す。海山それぞれのレンジャー、コンテンツの磨き上げ、マニュアル制作

想定する成果

- レンジャーとして若い有識者や講師の参画が増える。
10名→20名
- ストーリーを分かりやすく伝える満足度の高いガイド・コンテンツの提供

3地域の保全と連携体制（運用）の構築

- ３エリアでの継続的な連携を維持するため
中長期で年間３回程度の定例合同保全イベント設定する。
- 保全専門分科会を設置して保全サイドにおける環境情勢検証と保全の参画者拡大に向けたツアー、コンテンツ販売との整合性を図る。ツアー/コンテンツ分科会との協議を行う。

想定する成果

- 保全とツアー/コンテンツ販売のバランスに配慮した運営方法を共有し、保全への還元の仕組みを構築することで偏りのない新しい環境保全のモデルを構築できる。

R8年度のゴール

- モニターツアー、体験コンテンツによりコミュニティ会員の拡大（個人100名・団体10社）を達成。
会員によるツアー・体験コンテンツの情報拡散が行われ、環境保全活動に関わる人口が増加する。
- 各施策実施及び海外コミュニティへの発信で国外からの参加が発生して情報が拡散されPRにつながる。

想定される課題

- エリアの過疎化、少子高齢化、地方経済停滞などによる事業成果への影響
- 里山里海連環の学術的、科学的要素に対する理解の不足
- 公共交通機関などの路線廃止 ２次交通の整備停滞